

杜乃杵

秩父神社社報
杵乃杜(ははそのもり)

第 44 号

平成23年12月3日
(大 祭)



日本はひとつ

東国

頑張ろう

東日本大震災
復興祈願

葉っぱの鎮魂抄

晩秋は落ち葉の季節である。

境内に降りしきる色とりどりの枯れ葉は、命の果てる一瞬の輝きに似て、息を呑むほど美しい。ことにイチヨウの葉が黄金色一面に散り敷くさまは見事というほかはない。

だが、境内を常に掃き清める者たちにとっては、晩秋のひとしきり、これが悩みの種でもある。掃いても掃いても枯れ葉は後から後から降り積もる。根競べでは負けるが落ちであるから、せめて落ち葉を慰霊するつもりで丁寧ていねいに掃き集める。

夏の盛りに陽ざしを和らげ、大気の酸素を産み出し、余分な二酸化炭素を吸い込んで、やがて腐葉土ふようどになり、再び大気と大地を豊かなものにしてくれる。

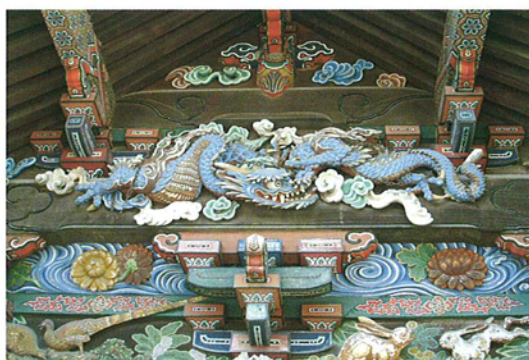
そうした小さな命の大きな働きを思えば、葉っぱといえども疎かおろそにしてはならない。

解説 秩父神社 (43)

権欄宜 甲田豊治

◆ 社殿彫刻が伝える文化

平成二十四年は壬辰年である。辰（龍）と言えば社殿彫刻の左甚五郎作と伝わる「つなぎの龍」は有名である。この龍は、「夜な夜な社殿から抜け出ては、近くの天ヶ池で暴れたため、鎖で社殿に繋ぎとめられた。」との伝説がある。この話と同様に、左甚五郎作で社殿から抜け出ては暴れる龍の彫刻の話をご存じだろうか。



名工 左甚五郎作 伝『つなぎの龍』

滋賀県大津市にある園城寺。天台寺門宗の総本山で、古くから日本四箇大寺の一つに数えられ、天智・天武・持統天皇の産湯に用いられた霊泉があるところから「御井の寺」から「三井寺」とも言われるそうである。

そして、この園城寺に左甚五郎作の龍の彫刻を見ることができ、由緒によると、

「三井寺の名称が生まれた霊泉「関伽井屋」の正面には、有名な左甚五郎作と伝えられる龍の彫刻があります。むかしこの龍が夜な夜な琵琶湖に出て暴れたために、困った甚五郎が自ら龍の目玉に五寸釘を打ち込み静めたと伝えられています。」とある。

また、「諸星の王として信仰された北極星は、妙見とも呼ばれ、古来より園城寺の御修法は尊星王法により厳修されます。」とあるように、「妙見信仰」が伝わり、鎌倉時代作「尊星王像」（国重要文化財）や、室町時代に画かれた「鎮宅霊符神像」などが納められており、妙見信仰を研究する上で大変貴重な資料である。

このように、「左甚五郎作と伝わる龍の彫刻」と「北辰妙見（鎮宅霊符神）」を祀るという当社との共通性に、不思議な「つながり」を感じる次第である。



宮地屋台後幕『狸々酔舞』



さて、今回の解説では、拝殿正面の彫刻を取り上げてみる。

最上段の右側には恵比寿、左側には大黒が見え、その下段には、壺を抱えた赤い髪に赤い顔、緋の装束を着た人物。右下には足を踏み外している滑稽な姿勢をとる人物と、左側には青い装束を身にまとった人物が見える。

上段の「恵比寿・大黒」に関しては、現代の私たちでも一般的によく知られた存在。縁起物や、幸をもたらす「福の神」として認識されている。

そして、下段の彫刻の題材である「狸狸」と考えられる。

秩父で「狸狸」と言うと、宮地屋台の後幕に刺繍されている構図を思い浮かべる方も多いのではないかと思います。

では、「狸狸」とは一体何か。

現代解釈は、次の通りである。

一、中国で、想像上の怪獣。

体は、狗や猿の如くで、声は小児の如く、毛は長く朱紅色で、面貌人に類し、よく人語を解し、酒を好む。

二、オランウータン。

三、大酒家。（広辞苑）とある。

また、能楽の曲名の「狸狸」の解説では、

「唐土の高風は、親孝行だったので、夢のお告げによつて市で酒を売り次第に富貴になる。ある夜、浮陽江から狸狸が現われ、高風の素直な心を賞して酒の泉を与えて舞を舞うという筋。」（国語大辞典）とある。

社殿正面の狸狸は、どうも、ストーリー性を持った「能楽の狸狸」を題材に表現したのではないかと考えられる。ではなぜ、「恵比寿・大黒」の下段に位置しているのか。単に「富貴」の象徴だからなのであろうか。

次回実に興味深い資料や彫刻製作年代なども考慮して、「狸狸」の意味するところを述べてみたいと思う。

緊急提言「町ぐるみ回遊型・祭礼博物館」の実現を

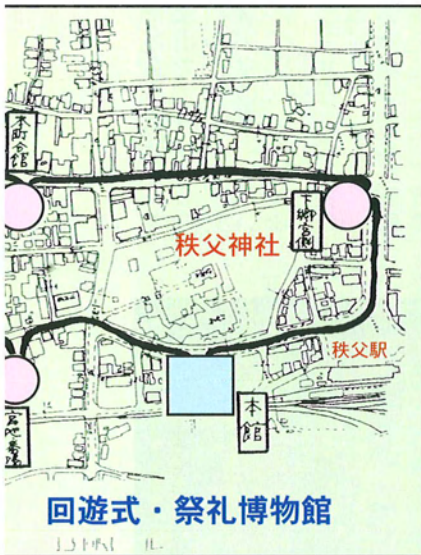
宮司 蘭田 稔

— 今こそ町おこしの秋

今年三月十一日に東日本一帯を襲った大震災は、太平洋沿岸への大津波をもたらし、福島原発事故をも引き起こしたことから未曾有の複合的災害となつて、多くの犠牲者ばかりか各地の市町村に甚大な被災と数多の生活難民の人びとを一挙に抱え込む悲劇的事態となりました。唯でさえ近年の深刻な経済不況にあえぐ日本社会には、天災とも人災ともいふべきこの大震災は、実に第二次大戦の戦災に次ぐ第二の国難ともすべき国家的難局となり、今後数十年をかけた復興・再生の努力を国民総がかりで取り組まねばなりません。

しかしながら、現代の国際化状況のなかで史上かつてないほど世界中の諸国から多くの緊急援助ばかりか、被災者たちの苦難に負けぬ避難の節度に驚きの称賛の声が各国から寄せられるとともに、戦後のめざましい復興と繁栄と同様に、日本はまた必ず立ちあがるとの大きな期待を世界が寄せていることも確かです。

それにしても、大津波で徹底的に破壊された沿岸各地や放射能汚染を蒙った市町村が、いかにして安全な生活社会を再興するかは今後容易ならぬ課題であることも然ることながら、幸いにも今度の被災を免れた当地といえども、ある意味で例外なく地域の活性化をどう進めるかは喫緊の課題であることに変わりはありません。



二 神社周辺の活性化事業

ところで最近仄聞したことですが、かねて秩父市当局をはじめ商工会議所や商店連盟などさまざまな関係者の皆さんが都市計画や市街地の活性化などに腐心しておられるなかでようやく具体的な中心市街地の修復への動きが始まっていることを知りました。

それは、経済産業省が所管する(財)地域総合整備財団、通称へふるさと財団が推進している「まちなか再生総合プロデュース事業」という名称で、地方都市の空洞化に悩んでいる「まちなか空間」の再生を支援しようという補助金事業に応募して、再生支援専門家と協力した本格的な秩父市の中心商店街の再構築に取り組もうという注目すべき事業です。

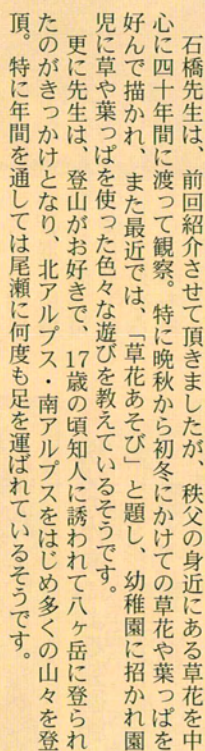
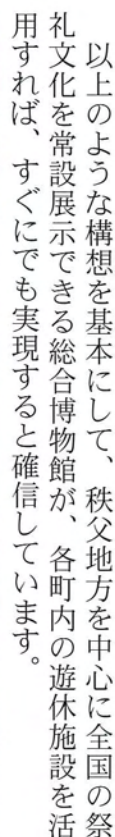
これには、地元関係者の話によると、既に今年度の二次募集に応じて九月の定例市議会でも市当局からの三〇〇万円の拠出が承認され、財団からの六〇〇万円の補助を加えての策定調査が始まっているとのことでした。

何うところによると、この事業名称には「秩父神社周辺の商店街活性化」ともいう趣旨になっているとのことですが、もしそれが本当であるとすれば、当社としては誠に光栄であると共に、地域氏神としてこの再生事業を成功させるためにもお役に立つべき責任を強く感じているところです。

三 町ぐるみ回遊型祭礼博物館の提案

実は私も、当社の大切な氏子町内の空洞化を比較的早くから憂慮してきた者のひとりです。たとえば本社報にも今から十三年前の第18号に「いまマチが危ない―家郷社会の崩壊」という論説を載せ、当時の市場開放の圧力で従来の「大店法」が廃止され

(四)そこで提案するのは、中心街を形成する祭りの各屋台町内の六ヶ所に、現存する秩父祭り会館の分館を配置して(図案



氏子青年会報告

◆ 今井祥介氏

優秀氏子青年表彰受賞



今井祥介氏が「優秀氏子青年」の表彰を受けられました。

今井氏は当氏子青年会発足時から発起人として活躍、会長時には幾多の事業を行い、その実績が高く評価されての表彰でありました。表彰式では全国から参集した仲間の前で全国氏子青年協議会七海会長より表彰状と記念品が贈られ、会場はわれんばかりの拍手で祝福されました。



◆ 京都大会・祇園祭研修旅行

氏子青年会事業部長 内田光輝



七月十六、十七日、国立京都国際会館において全国氏子青年協議会第四十九回定期大会が開催され、その席上当氏子青年会第四代会長今井祥介氏が「優秀氏子青年」の表彰を受けられました。

旅行へ、蘭田宮司様、宮前大総代様にも参加頂き原嶋清会長以下総勢三十名で行って参りました。京都着後、祇園祭山鉦の参観、そして函谷鉦へ搭乗、保存会の方に鉦の説明を詳しくして頂き、思い出に残る貴重な体験をさせて頂きました。その後、宮司様以下代表者十名が全国大会に参加し、他の参加者は思い思いに祇園祭を堪能しました。夜には受賞者の今井祥介さんを囲み、祝賀会が催され、和やかな一時を過ごしました。翌日は、全国三千八百余の日吉・日枝・山王神社の総本宮である旧宮幣大社・日吉大社を正式参拝をさせて頂きました。このお宮は蘭田



宮司様が「日吉大社境内保存管理・環境保全計画書策定委員会」の議長を務められたご縁もあり、馬淵宮司様より詳しく説明とご案内を頂きました。次ぎに一行は、近江八景「唐崎の松」で有名な日吉大社摂社 唐崎神社を正式参拝させて頂きました。

このお宮は、特に女性の信仰が厚いことからなのか、当日も女性の神職さんが優しく迎えてくれました。また「みたらし祭」が有名で、一般的に知られる「みたらし団子」の発祥の地だそうです。

その後一行は琵琶湖を後にし、帰路に着きました。今回幹事の皆さんの企画により、無事に心に残る大変有意義な研修旅行ができました。本当にありがとうございました。



梶だより



◆ 秩父の作家による芸術展

芸術の秋を彩る秩父在住の作家による作品展が平成殿二階ホールで開催されました。

「煌くアート展」

(十月十九日～二十五日開催)



秩父地域在住の秋山恭子先生(彫刻)・亀倉恭子先生(写真)・久保ユキ先生(ガラス工芸)・前原和子先生(しぼり染)・町田加津子先生(油彩画)・陶芸

平野節子先生(彫刻)・小菅トシエ先生(和紙工芸)・石原洋子先生(日本画)・赤岩智恵子先生(油彩画)・キヨコイシダ先生(インスタレーション・絵画)以上十名の女性作家グループによる芸術展で、本年度で6回目を迎え、今年三月の東日本大震災の復興と元氣を取り戻すために、様々な分野の芸術作品を展示頂きました。

「神田テル子

七宝の世界―柞の杜―

(十一月一日～七日開催)

秩父市上町在住の神田テル子先生



は、平成二年より七宝焼きをはじめ、同年、神奈川七宝展受賞。平成六年埼玉県美術協会展（工芸部）出品、入選し埼玉県美術協会会員となり、以降日本七宝作家協会展・同国際展に出品受賞され、華々しい活躍をされています。

今年度の作品展では、ふるさと秩父をテーマに、特に当社の杜を題材にした「杜シリーズ」の作品のなかで「フクロウ」がとても印象的に作品の中で表現されていました。

「5枚の葉っぱ展」

・水興会墨絵展

（十一月十四日～二十日開催）

毎年開催される水興会墨絵展に併せて今回はじめて「5枚の葉っぱ展」と題し、当社



は、平成二年より七宝焼きをはじめ、同年、神奈川七宝展受賞。平成六年埼玉県美術協会展（工芸部）出品、入選し埼玉県美術協会会員となり、以降日本七宝作家協会展・同国際展に出品受賞され、華々しい活躍をされています。

異なる5名による「葉っぱ」を主題にしたコラボレーションの芸術空間が実現しました。

◆台風ケヤキ倒木被害のこと



九月二日から三日の深夜、勢力の大変強い台風十二号の影響をうけて、平成殿脇の樺（ケヤキ）（樹齢およそ四〇〇年・周囲

五メートルほどの老木が裂けるように玉垣と石灯籠を破壊し末社東照宮側に倒れました。幸いなことに社務所・神門・末社への直接の被害がなかったのがせめてもの救いでした。

◆辰歳授与品のこと



平成二十四年は壬辰歳。「つなぎの龍」や「飛龍」など辰に関する社殿彫刻から、この度辰の縁起物を整えましたのでご紹介致します。毎年恒例の絵

馬展も色々な辰の絵馬をご用意致します。是非お参りの際は、開運招福の縁起物を受けて頂き実り多き一年をお祈り致します。（授与品数には限りがありますのでご了承ください。）

◆奉納三件報告

この度、神奈川県横浜市在住の加藤嘉平様より高額御浄財のご奉納。東京都中野区在住のジェフリー・ストーン、角田君江様ご夫妻より音響設備のご奉納。市内在住の高年齢崇敬者様より、台風による大ケヤキの倒木を悼み、大注連縄をご奉納頂きましたのでここに報告し、厚く御礼申し上げます。

◆秩父神社妙見講

自 平成二十三年 九月
至 平成二十三年十一月

- 九月 三日 荒川妙見講
- 九月 四日 浅海 忠講元外八十八名
- 九月 四日 小鹿野講
- 九月 十一日 松本守講元外百十五名
- 九月 十一日 中村講
- 九月 十一日 高橋信一郎講元外二百七十六名
- 九月 十一日 上町講
- 九月 十一日 新井猛夫講元外百九十四名
- 十月 二日 上宮地講
- 十月 二日 今井奎吾講元外百八十名
- 十月 二日 中町講
- 十月 二日 片山誠二郎講元外百二十九名

十月二十二日 東町妙見講

三友直彦講元外百五名

十一月五日 桜木講

寺林義夫講元外五十七名

十一月 九日 番場講

宮野前方也講元外百二名

十一月十六日 野坂講

新井永保講元外百八十七名

※前号に掲載しました上藤田妙見講の講元様の記載に誤りがありました。

今年度より新たに上藤田妙見講々元以前原孝至様が就任されました事を、御報告致します。

又、上町講々元の新井猛夫様が就任、更に桜木講がこの度発足し、寺林義夫様が講元に就任されましたのでご報告致します。どうぞ宜しくお願い致します。

◆柞乃杜神前結婚式報告

- 入間市小谷田 市川生悟・未沙様
- 秩父市中村町 岩田崇志・智美様
- 秩父市日野田町 宮前浩太・彩子様
- 秩父市下影森 小林 智・有里恵様
- 秩父市本町 稲葉正泰・奈央様
- 秩父市中宮地 町田 裕・由佳子様
- 秩父市佐間 千島賢一・美穂様
- 小栗町下小栗野 林 茂・麻紀様
- 神奈川県横浜 張 翔昊・文子様
- 秩父市太田 福田翔一・綾子様
- 秩父市下影森 矢部良行・恵様
- 東京都品川区 松本良正・千恵美様
- 横瀬町芦ヶ久保 村越克典・美穂様

未永く幸せな家庭をお築き下さいますようお祈り致します。

◆郷土芸能「獅子舞」神前奉納



かつて行われていた神前奉納獅子舞

例大祭期間の神賑行事として予て奉納頂いている下吉田の貴布祢神楽に加え、昨年の四日マチにはかつて行われていた「郷土芸能神前奉納」が復活し、秩父郡内の「黒谷獅子舞保存会」「久長獅子舞保存会」「久那獅子舞保存会」「矢行地獅子舞保存会」の四団体に協力を頂き、午前中は境内において奉納、午後は中町・東町・番場町を廻り、賑やかに郷土芸能を大勢の方々にご覧頂きました。

今年も四日が日曜日に重なることから開催される運びとなり、四日境内での獅子舞の演目は、

- 一、黒谷獅子舞保存会「竿掛り」
- 二、久長獅子舞保存会「剣がかり」
- 三、久那獅子舞保存会「岡寄」
- 四、矢行地獅子舞保存会「平彫」

を奉納予定。



午後一時からは神社を出発し、矢行事獅子舞「大刀掛」

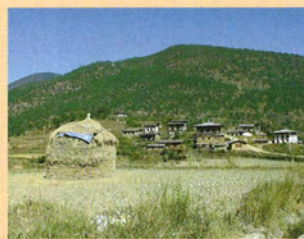
本町 埼玉縣信用金庫駐車場
久那獅子舞「岡寄」
中町 屋台收藏庫隣駐車場
久長獅子舞「花がかり」
東町 坂上商店前駐車場
黒谷獅子舞「奥彫」
番場町 妙見の森公園

にて奉納する予定です。是非、お誘い合わせの上お近くの会場で舞をご覧下さい。



昨年復活した神前奉納獅子舞

◆ブータン王国視察のこと



ブータン王国の農村風景

願のヒマラヤ山地の小さな国ブータンを訪れる機会を得て、去る十一月七日の午前〇時過ぎに羽田を立ち、バンコック

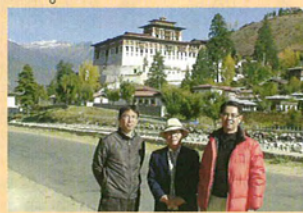
經由で同国唯一のパロ空港に無事着いたのが現地時間の午後二時すぎ。期待に違わず快晴に恵まれた海拔二千メートルの山間地からは、大気の澄み切った背景に白雪のヒマラヤ連峰をくっきりと望むことができる素晴らしい風光でした。

この紀行が実現したのは、世界宗教者平和会議(WCPR)日本委員会傘下の開発・環境委員会が企画した活動の一環で、近年国の内外で注目されているブータン王国独自のいわゆるGNH(国民総幸福量)を社会開発の指針とする施策を現地視察するという趣旨からでした。

現地に五日ほど滞在して、国民の意識調査を実施している学者や実業家などの意見を聞き、首都ティンプーを始め古都プナカやパロなど比較的開発の進んだ国内の西部地区を視察して、ブータン仏教の豊かな伝統文化や山村の生活ぶりを採訪したりと、連日晩秋の日和に恵まれての充

編集後記

実した紀行となりました。偶然ですが、帰国後の先月中旬には、新婚早々の第五代国王夫妻が国賓として来日され、東北の被災地を慰問して下さるなど大きな話題となりましたが、いずれ私も現地視察の成果を本誌に報告したいと存じています。(宮司)



プナカ・ゾン(寺院)
(右が田中委員長、左が澤島委員)

■ここに社報柞乃杜第44号大祭号をお届け致します。

この秋、ブータン国王が被災地の子供達に語った「竜」のお話がとても印象的でした。強い心で自分自身の日本全国、更には地球上に住む全ての竜が苦難に負けず大きく成長する一年になることを願います。

※本報の用紙は再生マツト紙を使用しています。

平成二十三年(二〇二二)十二月三日

編集 秩父神社社務所
発行 秩父神社社務所
〒361-0044 埼玉県秩父市番場町一三
TEL(0494)2210262
FAX(0494)2415596
印刷所 株式会社印刷所
〒361-0044 秩父市東町二七七八